

自己評価票（認知症対応型グループホーム 麦の家 ぶどうの木）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所の理念があり、共同棟1の目につく場所にかけてある。</p>	<p>理念の内容についてより理解を深め、実行できるよう努めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフミーティングなどで、理事長やホーム長の目指すものについての話があり、スタッフで共有できていると思う。</p>	<p>理念の実践に努めていく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用者の家族が近隣社会から見られていることをむしろチャンスとして、利用者の家族の利用者に対する態度の変化によって、認知症への理解に努める。</p>	<p>家族と話したときや、麦の家の理念やケアの方針について聞かれた時に話せるようにしていく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>こちらから挨拶をして、親しみやすい関係ができるように心掛けている。</p>	<p>入所者と共に近所を散歩したり、出掛けることにより、近所の方と顔なじみになるようにしていきたい。また、麦の家について知ってもらえるように努めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ふれあい福祉広場や中組の祭り、村の祭りなどに参加して、交流できるようにしている。</p>	<p>これからも地域の行事に参加して、地域の方に交流できるようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区民生員会やいきいきサロンの集まりに経営・管理者が出掛けて、地域の人々の福祉意識の変容に取り組んでいる。		入居者の方と地域との交流だけでなく、スタッフや事業所の専門性を活かした支援が地域の高齢者等にできるよう話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することで、入居者の支援に対して反省する点など振り返ることができる。評価することにより足りない部分が見え、これからの仕事への取り組みに活かすことができる。		事故評価を行って、取り組んでいることを整理しながら、できていないことについて改善できるようにしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	麦の家では、理念から実践現場の実情と課題についての理解をメンバーに深めていただく段階である。		推進会議のメンバーが会議の折りだけではなしに、もっと頻繁に現場に出掛けてもらい、職員と話し合う機会を作っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同上		村行政担当者と現場職員との間で、グループホームについて様々な状況を取り上げ、話し合うことを試みて生きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事例研究会で権利擁護制度について学ぶ機会があった。		権利擁護制度について感心があるので、資料を読んだり、学ぶ機会があれば参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がない様に仕事にとりくんでおり、言葉の一言ひとことにも注意している。		高齢者虐待防止法について学んでいきたい。また、仕事で悩んでいることをスタッフの中で相談したり、リフレッシュすることで気持ちにゆとりを持って入居者とかかわるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者の方一人ひとりに合った説明方法や説明内容で説明を行い、納得して頂いていると思う。</p>	<p>十分納得、理解できるまで説明・話し合いをした上で契約につながるよう努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族の不満を直接聞くことができていない。</p>	<p>入居者や家族が不満・区滋養・要望を言えるような機会を設けたり、言いやすい関係が築けるよう努めていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ケアプラン担当者を中心に、主任と共に利用者の様子を伝えることができています。</p>	<p>家族の方に入居者の方の健康状態だけでなく、印象に残った一言や一緒に笑いあった事などを伝えて生きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から直接不満を聞くことができない。</p>	<p>家族の方から要望や苦情、不満を言ってもらえる様な関係作りをしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に一度書面でのアンケートがあり、加えていつでも話すことができるよう、時間を作って下さっている。</p>	<p>積極的にもっと意見や要望などを伝えたり、相談できるようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフの人数や改善して欲しいことについて、主任や管理者などと相談することができている。</p>	<p>入居者の生活がより良いものになるように、意見を伝えたり相談していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が突然の病気や事故で欠勤した場合、他の職員からの自発的な努力による補充がなされている。同時に管理者が緊急に補充職員を充当して下さる。		利用者中心のケアが行われるように、職員相互の協力調整によってカバーしてきた。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任訓練として個別的ス - パービジョンを運営・管理者によって行われている。		スーパービジョン、特に自分の担当する利用者のケアについて積極的に受けている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例研究会があり、地域の他の事業者方の意見を聞いたり、勉強会や交流をしている。		他の事業者の方の意見、話しを聞くことで、自分自身の仕事ぶりについて振り返る機会になるので、事例研究会に参加し学んでいきたい。また、訪問などをさせて頂く機会をもち、そこから学び麦の家のサービスを向上させていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員たちが自由に介護主任・管理者、運営者、第三者の何れにも相談することができるように、時間を作って下さっている。		仕事の事で悩んでいると、困っていることがあれば、主任や管理者などに相談して、入居者との関わりに影響がでないように自分自身で気をつけたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日勤表の作成をはじめとして、介護日誌、ケアプラン記録などを通して職員の現業理解に努めている。		目標を立て、達成できるように向上心を持ち続けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアプラン担当者を中心に、本人の意向を受けとめる努力をしている。自立度の高い方とのコミュニケーションが少ないと感じている。</p>	<p>利用者本人から良く聞くことをより意識している。居室などでじっくり聞く機会を作り、本人の気持ちを受け止められるよう、直ぐにこたえられない方、言葉のでにくい方などに対してもあきらめず聞いていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族とのコミュニケーションが上手くとれずに挨拶だけになってしまう。</p>	<p>家族が困っていることを受け止められるように話を聞いていく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の相談は、主任や管理者が中心に行っている。</p>	<p>本人にとって必要なサービスは何かを見極めることが難しいが、他職員の考え方、相談の進め方などから学ぶ。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用して頂く前に「お試し」として、日帰りや宿泊をして頂き、雰囲気を知って頂いている。本人と家族にそれぞれ意見を聞き、納得した上での利用になるよう相談している。</p>	<p>施設の構造を含め本人に合うのか、また職員がどう対応できるかなどから、本人の望む生活ができているかどうかを職員全体で考えていきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に過ごすことはできているが、介護される一方の立場におかずというのは、日常の過ごし方に工夫が必用だと感じる。</p>	<p>本人を介護する立場の一方におかず、より生活の中心であるようにしたい。楽しいことだけでなく、怒り、哀しみも共にできるように生活していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションは、こちらからの依頼が中心になってしまい、喜怒哀楽を共に分かち合える事が少ない。		生活の中での本人の素晴らしさを、家族により多く伝えていくことで、楽しみ、喜びから分かち合えるようにしていきたい。また、家族の思い、不安なども受け止められるようにしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の中で本人がどのように暮らしてきたのかなど理解できている事が少ない。家族に本人の入居前の様子を聞くことが少ない。		入居前の様子を知ることで、本人の現在の支援について考えていきたい。本人と家族とがより良い関係を築くことができるように、家族と本人とをつなぐ関わりをしていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた場所とGHが離れてしまっている場合、関係の継続が難しい。しかし、村内など近い場所でも馴染みの場所を訪ねるなどの機会をもつことが出来ていない。		馴染みの場所とはどこか、それぞれの方について家族に聞きながら、先ずはどういった場所が本人と関わりが深かったのかを知りたい。また、その場所を訪ねることができると思う。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	おやつ作りなどを通して、利用者同士が関わられるようにしている。グループを作りやすいが中心になってしまうことがある。		グループの作り方を考え、一緒に生活しているということを意識できるようにしたい。少しの事でも利用者同士が声を掛け合っている姿があれば、関係作りができるように声をかけていく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	中川村の中での麦の家として、地域の中には以前利用されていた方の家族の方が住んでいるので、こちらから積極的に挨拶をするようにしていきたい。		関係が続くことにより、GHの利用者が災害などに巻き込まれた時に助け合えるようになってほしいと思う。そのため挨拶をしていくことと合わせて、何か工夫ができたらいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の中から、どのような思いをされているかのお話を聞くように心掛けている。ご本人が自分の思いを伝えることが難しい方の思いを把握することが難しく、本人本位になっているか分からない。</p>	<p>常に本人の思いを把握できるよう心掛けていくこと、また本人の体の変化などに応じて暮らしの希望や思いも変化すると思うので、その都度話し合いたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人から仕事や生活ぶりを聞いたり、分からない所はご家族の方に聞いている。ケアプラン担当者以外の方のことは知らないことが多いので、全体の人について把握できていない。</p>	<p>全体の人に目を向け、生活ぶりなどを知る。家族の方から話を聞くことも行っていき、よりその方を理解できるようにしたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>心身状態等の現状を把握できるようにしている。一人ひとりが共同棟でどのようにされているか、どんなことを話しているか把握できるように努力していきたい。</p>	<p>全体の中では、本人の訴えの強い方や多い方に注意がいきがちなので、一人を見て全体を見ることができるようにより努めていきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の方の思いを聞き、スタッフ同士や看護スタッフの意見を聞いて介護計画を作成している。</p>	<p>今まで以上にスタッフ同士で話し合いをしてより良く、本人が暮らせるように努めてたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>体調の変化に合わせ、月々のケアのあり方を考えると共に、スタッフと話し合いながら、新しい計画を行うことができる。介護計画の期間に応じて見直しを行うことができている。</p>	<p>日々の変化に応じてケアのあり方を見直し、本人がより良く生活できるように努めたい。様々なスタッフと話し合う中で本人にとって一番良いケアが統一してできるように、これからも取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入することができている。また、記録を読み返すことで新たな発見ができ、本人の思いを把握することにつながっている。		本人の素晴らしい言葉や行動を記録し、その素晴らしさスタッフで共有できたらいいと思う。日々のケアを自分なりに工夫し、それがどうであったか記録できるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとして、入居者の方にとって必要なケアを行っている。		入居者のケアを中心に、本人や家族の要望にできる限り応えていくことで、より良い生活になるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育所との交流をして、入居者の方々にはとても喜ばれている。消防署には、避難訓練や救急救命の指導を依頼する中で、麦の家について知ってもらっている。		地域資源を活用することや、協働することについて、実際に地域にどのような資源があるのがあるのか理解できていないので、理解していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具をレンタルすることや、パットなどの排泄用品の購入など、サービス事業者と協力、相談して行っている。		村の中で行われている生きがいデイのような取り組みに参加するなど、GHだけでなく生活に幅がでるよう、他のサービスや取り組みに注目していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホーム長や介護主任を中心に、地域包括支援センターのケアマネジャーと協力・協働している。		直接的に地域包括支援センターと関わることがないが、協働しているために、権利擁護などについて知識を持っていたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が長年かかっていた医師との関係を大切に、医療を受けられるようにしている。GHにかかりつけ医がいるため、納得が得られた上でそこで医療が受けられている。		本人や家族が希望する医療が受けられるように、本人の希望を受け止めていきたい。また、かかりつけ医師と細めにできる関係が築けたらいいと思う。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の方の中には、専門医にかかっている、定期的に診察を受けている方がいる。かかりつけの医師に相談し、専門医への相談や受診についてアドバイスを受けている。		認知症の専門医の先生に直接質問・相談できると、認知症についてより理解できると思うので、そういう関係が築けるように努力していきたい。
45 割っている 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の薬についてや簡単な処置について、看護職員と相談してケアをしている。(GH内) 村の診療所の看護師とも細めに相談したり、指示を仰ぐことができる。		これからも質問したり、相談が細めにできるように関係を築いていきたい。GH内で日常生活の中でも看護職員の視点など学び、ケアの参考にしていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際に本人のケアの情報など、細かく伝えている。入院している時の本人の様子を訪問時に聞くとともに、介護主任を中心に病院のソーシャルワーカーと情報交換ができています。		病院との情報交換ができたり、相談、質問がしやすいよう関係を築いていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、本人や家族の意向を聞いており、医師から日常生活の注意点など指示を仰いでいたり、相談できている。家族、GHスタッフでは方針を共有している。		終末期までの間に、本人と最後までどう生活したいのか良く話し合える関係を築いていきたい。また、家族とスタッフとがより一体となって、ご本人のケアができるよう連携・協力したい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極めるとともに、医療的な処遇については、看護スタッフから教えてもらっている。		診療所の看護師・医師とより協力体制を築き、在宅医療に近いようなより密なチームでの支援ができるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が自宅やGHで生活されていた時の持ち物や家具をそのまま使用して頂いたり、布団や畳の生活などの習慣もそのまま続けていただくことで、住み替えのダメージを防いでいる。 情報交換を行っている。</p>		<p>生活環境が変わることで、本人が受けるダメージの重さを理解し、なじみの物があることで、居心地の良い空間になるように、家族と相談しより情報交換ができるようにしていきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>普段皆がいる場所に個人記録が置いてあり、入居者の前で記録を書くこともあり、プライバシーを損ねていないか気になっている。言葉かけや対応が、そっけなくなってしまうことがある。</p>		<p>時間の余裕のなさから、ゆっくり話を聞けなかったり、言葉がけが荒くなってしまふような気がするので、自分自身の行動・言葉を見直す機会をもちたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が希望する前に、こちらから決めてしまいがちである。本人が希望を表せるように、分かる力に合わせた説明ができていない。</p>		<p>納得して生活できることにより、より重点を置き、本人が中心の生活だということ意識したケアを行っていきたい。また、本人が希望や思いを表せたり、本人の思いを引き出せるような説明をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の数が日によって少ないことがあり、本人のペースに添えないことがある。その日をどのように過ごしたいか、本人の希望を受け止め、実行することができていない。</p>		<p>・入居者の方それぞれの希望を聞き、その希望に添って生活できるようケアの方法を工夫してしていきたい ・一人ひとりのペースに合わせたケアができるよう、時間にも気持ちにもゆとりを持ってケアをしたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p> 理容・美容について外出することが難しくなってきたり、外出できる人が少ない。 ・白髪染めや乳液など本人の希望を聞きながら行っている。</p>		<p>・GH内の中であっても服装や髪の毛ハネなどこちらでも気をつけたい。 ・服を選んで着たり、気に入ったものを購入できるような外出の機会をもちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者と食事作りやおやつ作りを一緒行ったり、食器ふきなどを一緒に行なっている。 ・片付けの際、あわただしくなってしまう、一人ひとりのペースに合せられないことがある		・入居者の食べたいものを聞きながら食事を作ったり、好物を食べられるようにメニューを工夫していきたい。 ・本人の食事のペースに合わせ、ゆっくり食べられるように心がけたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・行事の時に、お酒やジュースを飲める機会を作っている。 ・誕生日の時にケーキを食べたり、外出してソフトクリームを食べたりして、楽しめるような支援をしている。		・一人ひとりの好きなものをより楽しむに生活の中に取り入れていきたい。 ・いつもとは違うおやつになるよ工夫したり、外出するなど楽しみの機会を増やしたい。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄前のサインを観察しながら、トイレへの誘導を行なっている。 オムツを使用している方であっても、座位をとることができるので、トイレでの排泄ができるように介助をしている。		・できるだけ便の失敗を減らし、トイレで排泄できるよう介助をしていきたい。 また、失敗される前にトイレに誘導できるよう、一人ひとりについて気かけ介助をしたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・自宅での習慣をできるだけ続けられるよう入浴して頂いている。 ・職員の数によって入浴できる方できない方が限られてしまうことがある。		・本人の調子の良いときやタイミングに合わせて、入浴して頂けるよう介助していきたい。 ・時間にゆとりをもってゆっくり入っていただけるように心掛けていきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・休みの時には自由に横になって頂いている。 寒くなってきているので、電気毛布を使用して気持ちよく休めるようにしている。		・椅子に座りばなしになってしまうので、足を上げたり、ひざを伸ばせるにして、足のむくみなどに気をつけていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事作り、食器ふきなどできることを入居者と一緒に行なっている。 ・生活の中で入居者一人ひとりに合わせた役割の支援が難しい。		・張り合いとなるような仕事や一人ひとりの役割を見いだしていき、日常の中で個人の能力が活かせるような支援をしていきたい。 ・家の中にいるばかりでなく、きばらしを目的として散歩や外出を行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さについて理解できていなかった。 ・一緒に買い物に行き、本人に選んでもらって身の回りのものを買ってきている。財布を本人に管理してもらっている方もいる。		こちらで選んで買ってしまうばかりでなく、一緒に見て選んで買うことを心掛けている。 ・スタッフが一緒に行くので、本人が財布を持ってお金を払ってもらうことを試して、自由に買い物ができるよう考えたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・希望を聞いて出かけるということは十分できていないが、外出や買い物などで出かけられるようにしている。 ・外出に出る回数にはばつきがあり、偏ってしまいがちである。		・天気の様子で外出したりする他に、一緒に計画して出かけられることも考えていきたい。また、一人ひとりの希望をかなえられたらいいと思う。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・年に1回家族にも参加を呼びかけて、一泊旅行に出かけている。 ・家族の方がドライブや外泊の機会を作って下さり、外出されている。		・旅行は楽しみの機会になるので、これからも続けていきたい。体力的なものなので、長距離の移動が困難な方は、個別的（一対一）にゆっくりと外出することを考えていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人からの希望があった時に電話を使用している。		・本人と本人が大切に思っている人の関係が途絶えてしまわないよう手伝えることを行なう。 ・年賀状や絵手紙などを書くことで、それぞれがが楽しみになったり、小中学生などの交流の機会となったらいいと思う。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を頂いたときに、ゆっくりできる居室や共同棟への案内をしている。		気持ちのいい挨拶を心掛けていく。また次回もきていただけるような言葉がけを行なっていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全が守れるようベット柵を固定しているが、本人の自由や尊厳が失われてしまうような身体拘束は行っていない。		安全面ばかりを考えて生活の快適さ、自由が失われてしまわないように注意する。やむを得ない場合は、本人・家族と十分に話し合いをして決めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について理解しているが、スタッフの人数の足りない時や一人の方のケアに集中して全員の動きを把握できない時に、安全のため居室に入っただき、鍵をかけることがある。		居室に入っただき鍵をかけることについての心苦しさはあるが、安全を守るために行なっている。スタッフ間の連携、協力などで、日中における鍵の使用を減らしたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で過ごす方でも、居室でどうしているか確認したり、共同棟で過ごす方でも眠っている、テレビを見ている、散歩をしているなど様子を把握している。・夜間巡視をして様子を把握している。		夜間何気なく居室に入ったり、2階部分から巡視をしているが、プライバシーを配慮することを意識して行なっていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や殺虫剤などについては、目の届かない所に置いている。・居室に果物ナイフがある方もいて、状態に応じて管理を任せている。		本人が危険なく居室や共同棟で使用できるものは、自由に使っただけのようにする。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態に合わせて、食事の用意、散歩の付き添いを行なっている。・スタッフ間で、入居者がどこにいて、何をしているのか、どんな状態なのかを報告し合っている。		・慌ただしい時など、入居者全員の把握ができずに、ケアについても見落としがちなので、事故防止の意識をしっかりとつ。・スタッフ間で声をかけ合いながら一人ひとりを把握し、事故防止に努めたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急法を年一回消防署の方より指導を受けている。また、夜間の急変した時の連絡先・対応について理解している。		・応急手当についてももう少し詳しく学んでいきたい。救急法の訓練を継続して行なっていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練はしているが、夜間の訓練はできていない。緊急時の連絡については理解している。		夜間中どこに災害があっても、安全に避難できるように訓練を行なっていきたい。また、地域の方に協力が得られるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>ケアプラン担当者については主任とともに、入居者本人の生活の様子とそれにどう対応するかリスクについて話している。</p>		<p>家族の方にリスクへの対応の仕方と意見を聞いていき、家族とスタッフとが納得・理解できるようにしていきたい。抑圧感のない暮らしを大切にして、対応策をこれからも考え実行していきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>一人ひとりの体調やケガについてはスタッフ間で情報を共有し、受診・処置などの対応をとっている。また、体調の変化を早期に発見できるよう努めている。</p>		<p>情報を皆で共有することで症状の悪化や他入居者への感染などを防いでいくとともに、受診したり早期対応に心掛けたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの使用している薬の目的用法はりかいてきているが、副作用や用量については理解できていない所が多い。服薬の支援は行なっているが、長期間服用している薬の症状の変化は、確認できていない所がある。</p>		<p>一人ひとりの薬について確認、理解していく。長期に薬を服用している方についても、症状の変化について観察・確認していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘は服薬して対応しているのが主で、飲食物の工夫など必要な方全員にできない所がある。・体を動かす働きかけを少しづつ行なっている。</p>		<p>便秘の原因や及ぼす影響についてより理解を深める。便秘の方に対する飲食物の工夫を全員の方にできるように努めていきたい。・入居者に体を動かす働きかけを行なっていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>眠前にうがいや義歯の洗浄を一人ひとりおこなっているが、毎食後は、自分で歯を磨ける人の支援しかできていない。</p>		<p>入居者の方の気分などによって、毎食後のうがいや義歯の洗浄が難しいこともあるが、口の中を清潔に保つ支援を心掛けていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事をとれるようににふりかけをかけたり、介助をして量の摂取ができています。水分量はお茶をなかなか飲まない方に、声掛け介助を行なっている。また、ゼリーなどを食べていただき、水分をとっている。</p>		<p>お茶以外の飲みやすいポカリなどを利用しながら、水分がとれるように工夫していきたい。また、食事の摂取までの動作に支援を必要としている方に対して、食べにくいことで栄養が不足してしまわないよう食べやすい工夫をしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防ため手洗いを常に行なっている。感染症が流行してしまった時には、手洗いに加えて消毒を行なっている。		自分自身の手をきれいにするとともに、入居者の方の手を清潔にすることを考えていきたい。食事前の手ふきやトイレ後の手洗いに気を配っていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁を食材別に分けて使用している。作り置きや解凍したものを長期間置いておかないようにスタッフの間で申し送って使用している。賞味期限を見て食材を使用している。		まな板の漂白を忘れまいがちなので気をつけていく。・夏場など特に手洗いに気を付けて、食材についてもしっかり加熱して、安全に食べられるようにしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・雨の日など玄関前が滑りやすくなるので、マットを敷いて安全に歩行できるようにしている。・門の周りの草取りや掃除を他のスタッフに任せきりにしてしまって私自信はあまりできていない。		玄関周りの掃除や整理などから、親しみやすく安心して出入りできるような玄関になるようにしていきたい。・門の周りの掃除草取りなども行なっていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・冬はコタツを出して生活感を採り入れている。共同棟はすぐに横になって休むことができるので、過ごしやすいと思う。・掃除が行き届かないことが多い。		・生活感や季節感を採り入れる工夫をしていき、より居心地の良い空間になるように努めていきたい。・本人、家族スタッフにとっても居心地の良い空間になるように掃除や片付けなどを行なっていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事のペースや作業などに応じて、利用者同士のグループを作っている。共同棟で一人になるのは難しいが、横になったり、仕事をしたりと思い思いに過ごすことができる。		それぞれに合ったことができる空間作りや支援をしていきたい。一人になる時間や、一人でのんびり過ごすことのできるような工夫をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物などをもってきて頂、使い勝手が良く今までの環境に近い居室になるようにしている。表札やポストを用意していただき、家として過ごしていただいている。		居室が本人にとって、ほっと安心できる場所になるように、本人や家族と相談しながら、環境作りを行なっていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候にもよるが、毎日空気の入換えを行なっている。居室の温度は入居者の方の好みに合わせて行なっている。(暑がりの方、寒がりの方に合わせて)		寒すぎる、暑すぎることで体調を崩さないようにその方に合わせた温度調節を行なっていきたい。においや空気のだよみの無い空間になるように気をつけていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は滑り止めのマットや手すりを使用して、安全に生活できるようにしている。		自立した生活が送れるように考えると、工夫できるところがまだあるように思うので考えていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前に表札がかかっている方がいて、自分の居室であると安心できているように思う。		わかる力を活かすための工夫や支援について、まだできることが多くあると思うので考えて実践していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは鍵をかけてしまうことが多いが、外に散歩に自由に出られるようにしたり、外お茶を飲むなどして、庭に出て季節感を感じていただいている。		車椅子を利用している方だと、自由に動けないため、同じ場所だけで過ごすことになってしまわないように散歩にでられるようにしていきたい。・庭を活用して楽しんで活動できる内容を考えていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)